

# 国立防災科学技術センター研究報告 第6号 1971年3月

## 正 誤 表

ページ	訂正箇所	誤	正
3	下から12行	内部気象予測法	内部気温予測法
4	上から3行	……の 気象	……の微気象
4	下から6行	拡張力	抗張力
6	上から6行	第4章	第3章
6	下から16行	床面純放射量	外壁面純放射量
7	上から16行	臨界条件	臨界条件
8	上から15行	ポケット	ポット
9	下から8行	スの半旬平均値	ス)の半旬平均値
9	下から2行	月合計日射量	日合計日射量
9	下から2行	$\sum R_s$	$\sum_{\text{day}} R_s$
10	下から9行	接するため	接近するため
12	上から12行	内外気温	内外気温差
13	Fig. 2.6	fluxes	fluxes.
13	下から6行	$T_{\text{max}} - T_0$	$T_0 - T_0$
14	下から12行	放射型	放熱型
14	下から3行	ハウス内気温 °C	ハウス内気温 °K
14	(2.12)式	$4 \sigma_i T^3$	$4 \sigma_i T^3$
19	Table 2.1	and on an	and in
19	上から3行	そおで	そこで
20	上から10行	3600 cm/sec	3600 m <sup>3</sup> /sec
20	(2.20)式のAをつぎのように訂正		$A = \frac{a_1}{b_0 \sqrt{1 + \left(\frac{\omega}{b_0}\right)^2}}$
21	上から15行	第4章	第3章
24	Fig. 3.2 別紙1のように訂正		
24	上から4行	ボーエン比 $\beta$	ボーエン比 $i\beta$
24	(3.3) 式	$\beta$	$i\beta$
24	下から8行	ハウス内気温 °;	ハウス内気温 °C;
25	下から6行	長波放射損失	長波放射熱損失
29	上から7行	気温差	温度差
32	Fig. 3.11 別紙2のように訂正		
34	下から8行	乾燥比	乾燥化
37	上から6行	$iLE$	$iLE$
39	上から2行	総括 伝達係数	総括熱伝達係数
39	Fig. 3.17	total	overall

ページ	訂正箇所	誤	正
40	上から2行	$A_w \cdot h_i$	$A_w \cdot h_i$
40	(3.15)式	$A_{wt}$	$A_w \cdot t$
44	(4.5)式	$c_p \rho V_c b$	$c_p \rho V_c b_0$
44	Fig. 4.1	measl red	measured
45	上から8行	$_i T_{\text{obs}}$	$_i T_{\text{obs}}$
45	上から17行	$B=h$	$B=k$
47	上から1行	床面から	床面が
47	下から13行	$(1+2 \quad)$	$(1+2\varphi)$
58	(4.30)式	$F_*$	$_o F$
61	下から18行	1.5℃をこえること	1.5℃をこえること
62	Fig. 4.16	$4 \cdot 10^4$	$4 \cdot 10^{-4}$
67	(4.33)式	$d_a$	$da$
68	下から16行	あらわれる：	あらわされる：
72	(4.1)式	$\Delta T$	$\Delta T_1$
72	(4.43)式	$\Delta T$	$\Delta T_2$
72	(4.44)式	$\Delta T$	$\Delta T_3$
72	(4.45)式	$\Delta T$	$\Delta T_4$
76	上から8行	$=l_h[T_h]$	$=l_h[T_h]$
76	(4.53)式	$R(h^4)$	$r(h^4)$
76	上から14行	ここで：	ここで $r$ ：
76	上から17行	$R$	$r$
76	下から4行	$(M_{\text{max}})$	$(M_{\text{max}})$
76	(4.55)式	$>$	$\geq$
80	下から6行	$l \cdot \cdot / \min$	$ly / \min$
81	Fig. 4.40	$\sum_{j=1}^{31} T_j / 31$	$\sum_{j=1}^{31} T_j / 31$
82	Aをつぎのように訂正		$A = \begin{bmatrix} b_1 & c_1 & & 0 \\ a_2 & b_2 & c_2 & \\ & \ddots & \ddots & \ddots \\ 0 & & a_n & b_n \end{bmatrix}$
82	(4.58)式をつぎのように訂正	$\left. \begin{aligned} b_1 \cdot T_{0, m+1} + c_1 \cdot T_{1, m+1} &= y_1, \\ a_2 \cdot T_{0, m+1} + b_2 \cdot T_{1, m+1} + c_2 \cdot T_{2, m+1} &= y_2, \\ &\vdots \\ a_{n-1} \cdot T_{n-2, m+1} + b_{n-1} \cdot T_{n-1, m+1} + c_{n-1} \cdot T_{n, m+1} &= y_{n-1}, \\ a_n \cdot T_{n-1, m+1} + b_n \cdot T_{n, m+1} &= y_n. \end{aligned} \right\}$	
82	(4.59)式をつぎのように訂正	$\left. \begin{aligned} b_2 \cdot T_{1, m+1} + c_2 \cdot T_{2, m+1} &= y_2^*, \\ a_3 \cdot T_{1, m+1} + b_3 \cdot T_{2, m+1} + c_3 \cdot T_{3, m+1} &= y_3^*, \\ &\vdots \\ a_{n-1} \cdot T_{n-2, m+1} + b_{n-1} \cdot T_{n-1, m+1} &= y_{n-1}^*. \end{aligned} \right\}$	
82	下から1行	$C_{n-1} \cdot T_{n, m+1}$	$c_{n-1} \cdot T_{n, m+1}$
84	(4.63)式をつぎのように訂正	$T_{1, 0} = a_0 + b_1 \cos t + b_2 \cos 2t + b_3 \cos 3t$	
85	Fig. 4.45別紙3のように訂正		

ページ	訂正箇所	誤	正
88	上から6行	約最大	最大約
88	上から15行	2次曲線散	二次曲線形
89	上から25行	(4.24)	(4.24式)
91	下から2行	$R_s$	${}_oR_s$
91	下から2行	$R$	$R_o$
92	(5.1)式	$(1-a)$	$(1-a)$
92	上から15行	$\sum {}_oR_s$	$\sum_{\text{day}} {}_oR_s$
94	Fig. 5.3	is use	is used
95	上から4行	あらわされている	あらわされる
95	上から6行	$f$	$\rho$
95	(5.6)式	$A_w H_1$	$A_w H_T$
96	下から17行	グリーアワー	デグリーアワー
96	下から13行	$\langle D_n \rangle_{\text{year}}$	$\langle D_h \rangle_{\text{year}}$
96	下から5行	デラッアワー	デグリーアワー
96	下から1行	$T_{\text{max}}$	${}_i T_{\text{max}}$
97	下から6行	奥州地方	奥羽地方
99	下から16行	$T_m$	$t_m$
99	下から9行	12 ly/min	1.2 ly/min
99	下から2行	$T_m$	$t_m$
100	下から5行	${}_oR$	${}_oR_s$
102	Table 5.1	Koshin' et	Koshin' etsu
102	下から7行	放射量	放熱量
103	上から2行をつぎのように訂正	Re: 特徴長さ $l$ をもちいたレイノルズ数 $= u \cdot l / \nu$ ;	
103	上から6行	Pr	$\text{Pr}_s$
103	上から7行	$(r_a / \text{Pr}_s)$	$(\text{Pr}_a / \text{Pr}_s)$
103	(5.15)式	$h_t$	$h_i$
103	下から2行	ly/sec;	ly/sec · °K;
105	上から19行	空気負荷熱量	冷却負荷熱量
105	上から22行	噴霧量水	噴霧水量
105	(5.23)式分母	$\epsilon_v \rho_w$	$\epsilon v \rho_w$
105	上から24行	: 空気の比容積	$v$ : 空気の比容積
109	上から4行	類似	類似
109	上から14行	${}_i T_{\text{max}}$	${}_o T_{\text{max}}$
109	下から18行	北西部八州	北西部九州
109	下から6行	最 段	最上段
110	上から7行	この方式によると	この方式による
111	上から18行	単位として	単位とした
111	下から4行	$T$	$T_c$
112	(5.31') 式をつぎのように訂正	$T_c = {}_i T_{\text{max}} - ({}_i T_{\text{max}} - T_o) \exp \left( -\frac{A_i h_t}{R c_p \rho V_a} \right)$	
112	上から13行	Rのいウス内	Rのハウス内

ページ	訂正箇所	誤	正
112	下から15行	外径 $l$	長さ $l$
112	下から6行 (分母)	rm	ln
113	(5.35)式をつぎ のように訂正		$l = \frac{c_p \cdot \rho \cdot V_a (T_c - T'_m)}{2\pi r_m \cdot h_* \cdot \Delta T_m}$
113	上から3行	$T_0 =$	$T_0 \simeq$
114	上から16行	熱 達	熱伝達
114	Fig. 5.24	denot s	denotes
114	下から6行	$i T_s$	$i T_{s+1}$
116	下から13行	実際の表	実際の値
117	上から4行	おこなうために	おこなうために
118	上から9行	保温化	保温比
118	下から20行	保温化	保温比
119	上から9行	湿度の日変化	温度の日変化
121	(4.5)式	$c_i (k \sin \omega t -$	$c_i (k \sin i \omega t -$
121	上から11行	内島	内嶋
121	下から14行	面温度と	床面温度と
121	下から13行	れ 減少する	れて減少する
121	下から4行	保温化	保温比
122	上から14行	${}_o h \sim$	${}_o h \simeq$
122	上から14行	${}_i h \sim$	${}_i h \simeq$
123	上から11行	30cm高さ	30m高さ
124	(5.19)式をつぎ のように訂正	${}_i T - {}_i T' = {}_o T + \frac{R({}_i S - {}_i B)}{h_{ad} + h_i + {}_o h_r}$ $- \frac{R({}_i S' - {}_i B') - h'_r (\theta_w - {}_o T) + h_{ad} \cdot {}_o T + h'_i \cdot \theta_w}{h'_i + h_{ad}}$	
125	下から17行	,700°C-day	9,700°C-day
127	上から13行	ならびに温度環境	ならびに湿度環境
131	上から1行	内島	内嶋
132	上から29行	here presented.	presented here.
132	下から21行	diuranl	diurnal
133	上から16行	indise	inside
133	下から5行	blance	balance
137	上から1行	a ventilated	an unventilated
138	上から12行	solution	southern
138	(5.19)式をつぎ のように訂正	${}_i T - {}_i T' = {}_o T + \frac{R({}_i S - {}_i B)}{h_{ad} + h_i + {}_o h_r}$ $- \frac{R({}_i S' - {}_i B') - h'_r (\theta_w - {}_o T) + h_{ad} \cdot {}_o T + h'_i \cdot \theta_w}{h'_i + h_{ad}}$	
139	下から4行	adaptative	adaptive

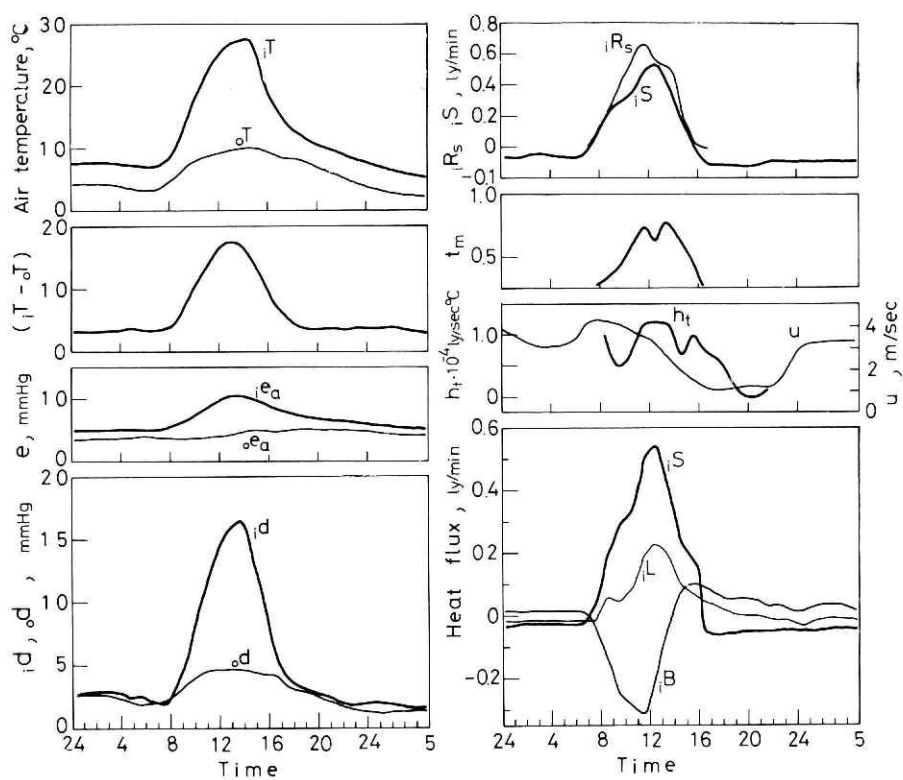


Fig. 3.2 Diurnal change of meteorological elements and heat balance components inside the glasshouse (Nov. 27, 1966).

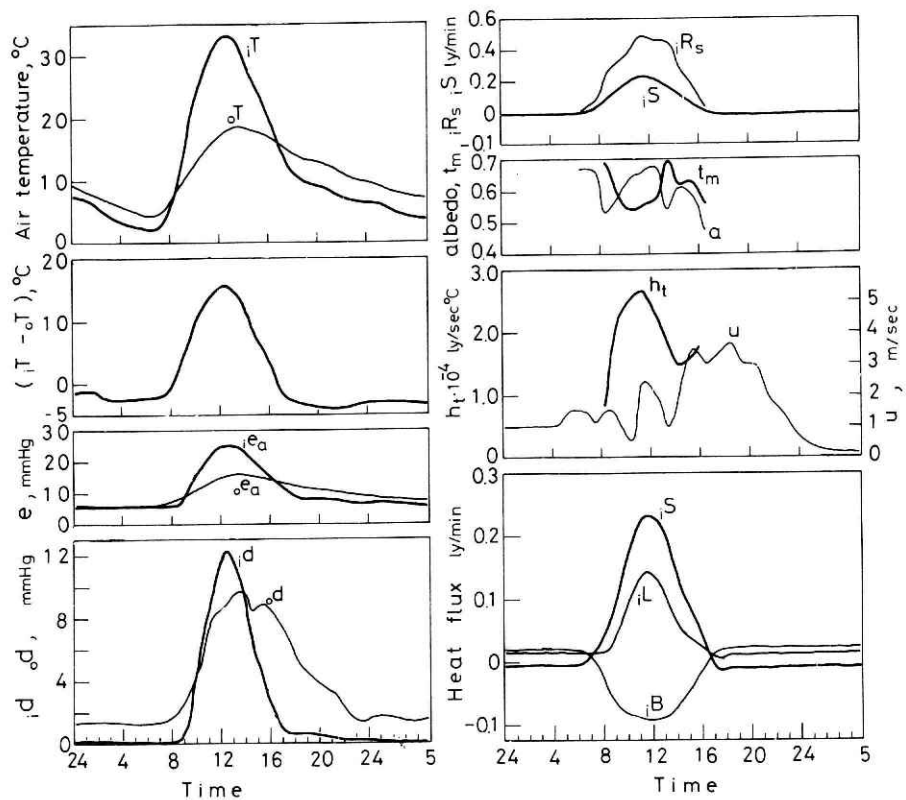


Fig. 3.11 Diurnal change of heat balance components at the floor covered with polystyrol plate (30 mm thick) inside the vinylhouse (Feb. 12, 1969).

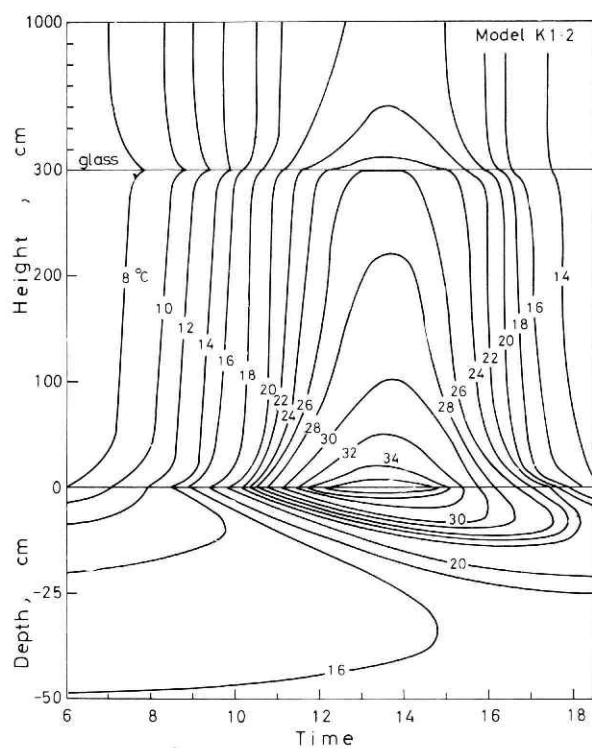


Fig. 4.45 Time cross section of temperature profiles inside and outside the glasshouse of model K1.2.